

塗料添加剤 ワンダードロップ X-2・X-7・X-9

【特長】

ワンダードロップは塗膜のハジキが生じる場合に、適量添加する事でハジキを止める事が出来る塗料添加剤です。

塗装時の障害の一つにピンホール(ハジキ)があげられます。これは塗装する表面にワックス、油、シリコン等(汚染物質)が残留している場合に発生します。

塗装の前処理としてこれらのものを完全に除去することが必要ですが大変な労力と時間がかかり、溝状になった箇所等拭き取ることが事実上不可能な部分もあります。ワンダードロップを塗料に添加すると、塗料の表面張力が低下して、被塗物表面に汚染物質があっても十分に濡れ広がり、ハジキを止め平滑で均一な塗膜が形成できます。

【使用方法】

① 塗料へ添加・混合

ワンダードロップを適正な添加量範囲内(2 ページ目参照)で、ハジキの止まる最少量塗料に加え、十分に攪拌・混合してから塗装してください。

② 試験塗装

使用できる塗料はワンダードロップが相溶する塗料に限られます。必ず事前に試験塗装をし、その結果をよく観察された上で本塗装してください。

※ 水性塗料・アルコール性塗料は使用できません。メタリック塗料に添加して使用した場合ハジキは止まりますが、メタリック剤が不均一となりハンマートーン状を呈する場合があります。

③ 重ね塗りの場合

ワンダードロップを添加して塗装した塗膜への重ね塗りをする場合には、重ね塗りする塗料にも必ずワンダードロップを使用してください。

その場合の添加量は、前の添加量より1~2割多くしてください。

1 回目に添加した量:X

2 回目:X+A(1 回目の X 量の 1~2 割)=Y

3 回目:Y+A

・

・

・

【各添加剤の適正・添加量】

項目	X-2	X-7	X-9
使用できる塗料	<ul style="list-style-type: none"> ・硝化綿ラッカー (ハイソリッド含む) ・アクリルラッカー ・メラミン ・フタル酸 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクリルウレタン ・フッ素 ・硝化綿ラッカー ・アクリルラッカー ・焼き付け塗料 (メラミン・アクリル) ・フタル酸 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクリルウレタン ・フッ素 ・硝化綿ラッカー ・アクリルラッカー ・焼き付け塗料 (メラミン・アクリル) ・フタル酸
事前テストを必要とする塗料	<ul style="list-style-type: none"> ・ポリエステル ・ポリウレタン ・エポキシ ・メタリック ・アクリルウレタン 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポリエステル ・ポリウレタン 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポリエステル ・ポリウレタン
使用できない塗料	<ul style="list-style-type: none"> ・水性 ・アルコール性 ・相溶しない塗料 	<ul style="list-style-type: none"> ・水性 ・アルコール性 ・相溶しない塗料 	<ul style="list-style-type: none"> ・水性 ・アルコール性 ・相溶しない塗料
添加量 希釈前の塗料に対し	1/10,000～1/5,000	1/5,000～1/1,000	1/1000～1/100
ハジキ止め効果	高い	中間	低い
濁り	多	中間	少
荷姿	チューブ	ポンプ	ロケット缶

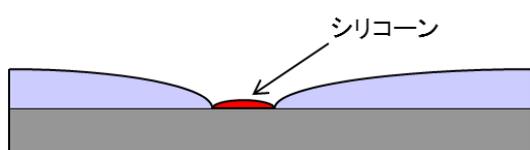
- ・X-2 はハジキ止め効果は高いが濁り易い。
- ・X-7 はポンプタイプのため、X-2 に比べて少量ずつ使用しやすい。
- ・X-9 はハジキ止め効果は他に比べ低い、濁りが少なく重ね塗りし易い。

※ **添加量はシンナーで希釈する前の塗料ベースに対するものです。**

添加量が多い場合塗料の乾きが遅くなり、べたつきが残ります。

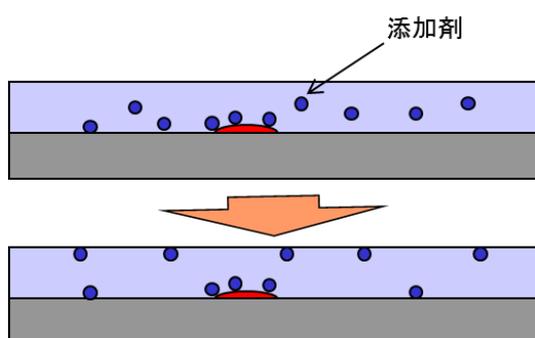
【ハジキ止めのメカニズム例】

●無添加



シリコーンが塗料に馴染まずハジキが発生する。

●添加後



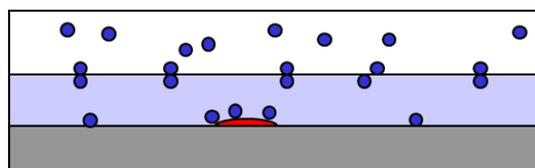
ワンダードロップ(有効成分)が塗料中に分散し、シリコーンと馴染むため、ハジキが抑えられる。

その後、ワンダードロップが表面に浮き出す。

X-2、X-7 は有効成分が多いため、有効成分が浮き出し易い。

このため、ベースへの添加量は極力抑えておくことが望ましい。

●添加後(重ね塗り)



そのままでは表面に浮き出した添加剤がハジキの原因となるため、さらに過剰のワンダードロップを上塗り塗料に添加する。ただし、添加量が多いと濁りの原因となるので注意。